

## 甬

**用**は甬で、牧場にはりめぐらした柵の象形で“はりめぐらす”のが本義です。「用心」は“心<sup>もち</sup>を用いる”ことだと解いていますが、“心をはりめぐらす”ことだと解くべきでしょう。柵のどこが破れても牛は逃げずに逃げずに逃げず。火の用心は、どこにちょっとした油断があっても大事をひき起こします。どこにも欠けた所がないように心を周囲のすみずみまではりめぐらすのが、「用心」ということなのです。柵は牧場になくはならぬものなので、“必要”“役に立つ”“使う”の意味が生まれました。

**甬**は、柵の上に人の頭の見える様子です。柵の様子を見に柵にそって“まわる”のが本義です。

**踊**は、“足でぐるぐるまわる”という意味で“おどる”ことを表わしています。舞踊というものは、輪を作ってぐるぐる回りながら踊るものです。

**俑**は、見かけない字ですが、孟子という書物に、孔子が“初めて俑を作った人はその子孫がほろびるであろう”と言って俑を作った人を憎んだことが見えています。人形ですが、手足が動くようになっていたと言いますから、“踊る人形”の意味で、甬とイとで作られたのかと思われる。

**涌**は、“水が踊る”という意味の字です。地中から、地下水が踊り出るように“わく”ことです。涌の音は用<sup>ヨウ</sup>で、甬、俑、踊、みな同じです。

**勇**は、甬と力との会意形声です。“涌き出る力”という意味の字で、泉の涌き出るように自然と心の中にみなぎってくる力が「勇気」です。たまり水のように使えばなくなってしまうような力ではなく、使っても使っても溢れてくるような力です。音は用<sup>ヨウ</sup>が変化した yū

**湧**は、全く涌と同じ意味の字です。発音は、ヨウともユウとも読まれます。湧出(ユウシュツ/ヨウシュツ)。

**通**は、柵にそって道を行き来するのが本義です。柵があって安心してとおれるので、“物事がうまく行なわれる”の意味に用いられます。「通人」というのは、「世の中の万事を知りつくした人」という意味です。通は、単に「歩く」「行く」の意味ではなくて、“すらすらと”という意味が加わった字です。通用、通読。音は用から変化したトウ、またはツウ。

**桶**は、まわりを木でぐるっと囲んで作った“おけ”ということが想像できますか。この甬は“はりめぐらす”の本義によったもので、“木をはりめぐらして作った容器”という意味の字です。音は用<sup>ヨウ</sup>ですが、トウ、ツウの音もあります。

**痛**は、休じゅうにはりめぐらされた神経に感ずる病気という意味の字で、“いたむ”ことを表わしています。痛み自体は病気ではありません。体のある部分が病気で異状を呈していることを**通**信するのが“痛み”であるわけです。音は、通と同じツウです、痛快、痛感というように、“ひどく……”の意味にも使われます。